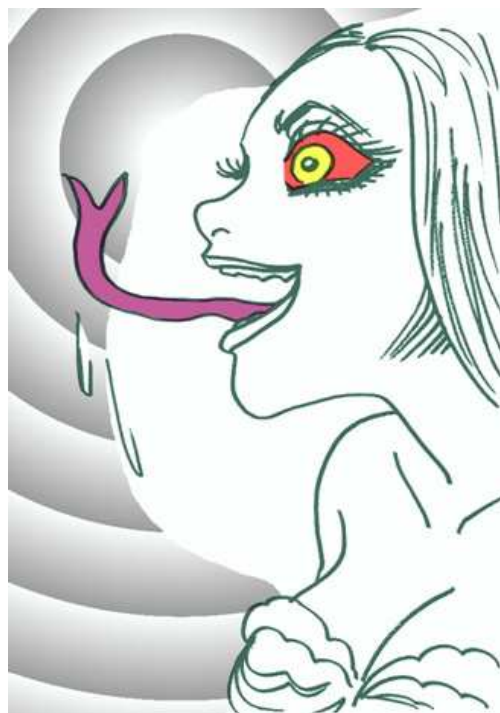


## 闇からの魔手 その13



「武器を取れ、タマちゃん」

タミー・オロチは両手に掴んだエアガンのグリップを珠美の方に向かって差し出した。

「そして、私と戦え！」

珠美は二挺のエアガンを受け取った。

「お前の力が十分に強ければ、私をタミーから引き離すことができるぞ！」

「本当か？」

珠美の顔に覇気が漲った。

「私を時空の彼方へぶっ飛ばすくらいのつもりで、気合を込めて撃つのだ！」

珠美が勇んで立ち上がり、両手のエアガンを構えると、タミー・オロチは人差し指を伸ばして、『食指銃』の発射体勢を取った。

「READY？」

タミーに憑依しているせいか、妙なところで英語が出る。

「GO！」

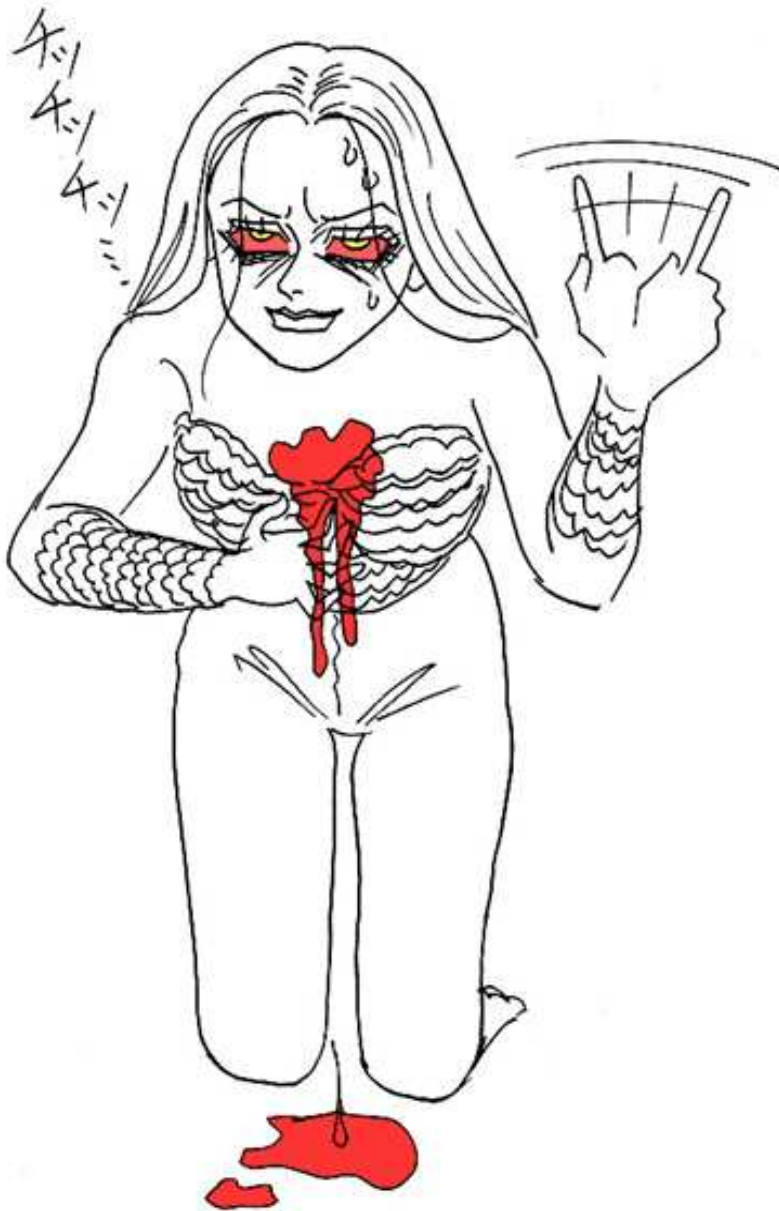
珠美は立て続けに引き金を引いて連射した。『半霊半物』仕様とは言え、元来エアガンなので、火薬の破裂音はなく、カチンパチンと少々間抜けで迫りに欠ける。だが、珠美本人は大真面目に大砲をぶっ放すくらいの意気込みに満ちていた。全弾撃ち尽くし、弾倉を入れ替えようとするのを待って、タミー・オロチは発砲した。珠美は腹部に被弾して、もんどりうって絨毯の上に倒れ込んだ。

「腕は悪くない……全弾心臓部に命中……」

タミー・オロチは血の吹き出す胸を押さえながら擦れ声で呟いた。

『半霊半物』の銃だからダメージはある……だが、所詮はそれだけのこと……  
今のお前では私を祓い落とすにはあまりにも力不足だ……」

ちっちちちと舌を鳴らしながら、人差し指を振るという外国人がよくやる仕  
種で揶揄した。



「面を洗って出直してこいと言いたいね！」

タミー・オロチはあからさまに侮蔑の表情を浮かべつつ、『食指銃』で珠美の  
両腕両脚を粉砕した。

「NO！」

スクリーンに映し出される珠美の残虐な被弾シーンにタミーは絶叫した。まりかの顔を自分の胸に押し付けて、幼子に惨たらしい光景を見せないように庇いながら……。



「さあ、サッチー」

タミー・オロチは山下佐知恵に顔を向けた。

「今すぐ病院へ担ぎ込めば、あるいは一命は取り留めるかもしれない。だが、手足は完全には元に戻るまい。警察官も続けられないし、何よりも普通の生活すらままならないだろう。となれば、選択肢は一つしかなかなかろう？」

「貴様、最初からそのつもりだったのか？」

山下は眉を顰めた。

「当然だろう？ タマちゃんに釣り合う相棒を世界中に求めてタミーを探し当てた。今やタミーの全てを手中に収めたのだから、あとはタマちゃんを『半霊半物』の諫波衆にするだけだ。人間なんて一度喰らってしまえばそれっきりだが、不老不死の諫波衆なら、永遠に遊び相手として楽しめるからな」

「あんたなんかと永遠にだなんて……真っ平だわ……」

口からも血を流しながら、珠美は息だけの声で言った。

「じゃあ今すぐ死ね！ この負け犬が！ タミーはどうするんだ？ このまま私に謹んで進呈してくれるってか？ そりゃあそりゃあ御親切にどうも」

タミー・オロチはごふっと咳き込んで吐血した。

「こりゃあいかん。しばらくはゆっくり養生しないと……。くたばる前にサッチーとよく相談するんだな、タマちゃん。全てはお前の決断一つにかかっているんだからな」

そう言い残して、タミー・オロチは姿を消した。

## 闇からの魔手 その14

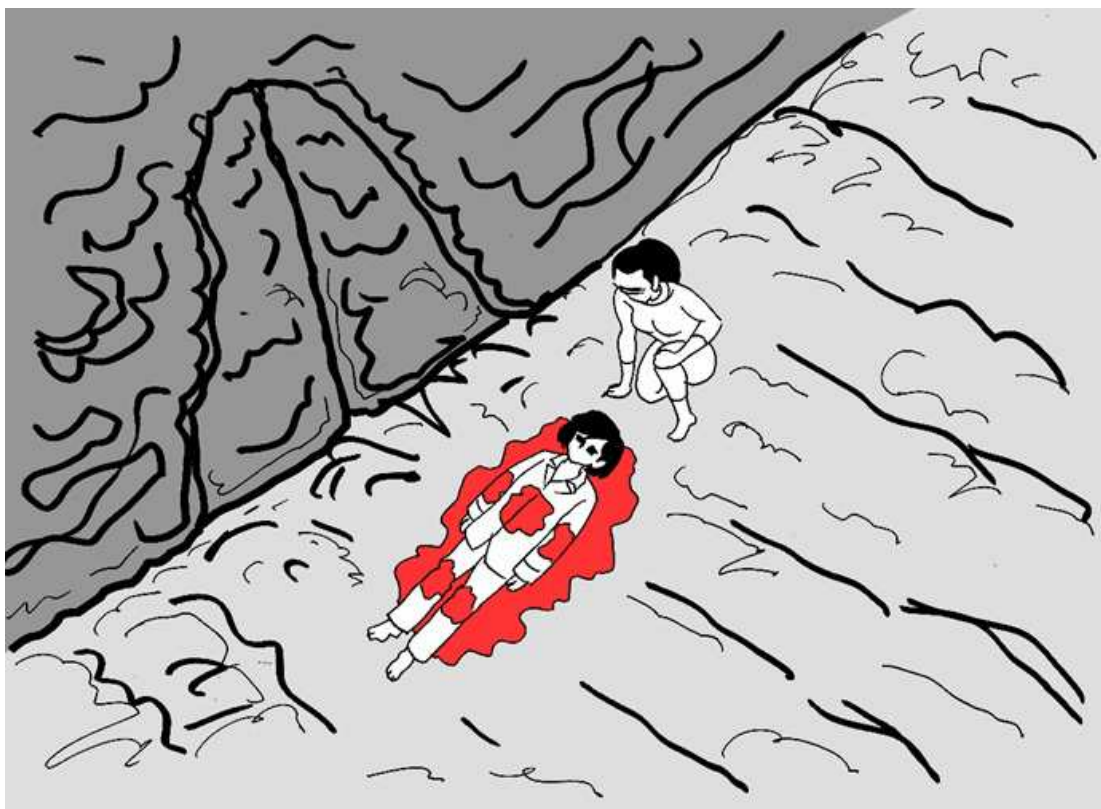
「私……このままじゃ終われない……！」

痛々しい姿の珠美だが、眼差しだけはしっかりしていた。

「お願い、佐知恵さん、一度だけ……一度だけでいいから……私を『半霊半物』にして……。タミーを取り戻す……必ず……！」

「わかったわ。そうと決まれば今すぐ、あなたを扉の向こうへ連れて行くわ」

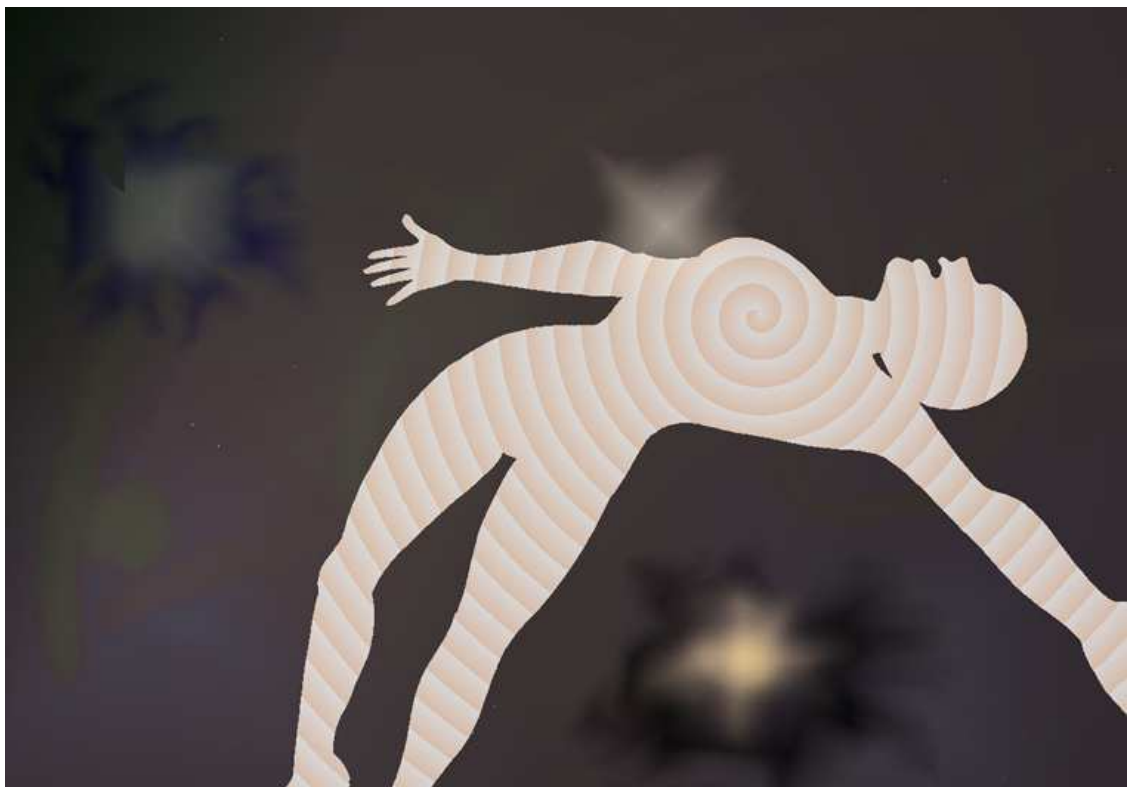
珠美の自室は、大量の血液だけを残して、無人となった。



宇宙生命の根源的世界への入り口は二重扉になっている。最初の扉は広大な岩場に切り立った壁のところにある。引き戸形式の岩の扉は、中央から左右に

分かれてごろごろと振動を伴って重々しく開かれていく。

第一の扉を抜けると、物質感覚が急速に薄らいでいく。視覚自体が失われていくのか、漠然とトンネルのようなものの存在を感じるのみで、その外観を観察することはできない。トンネルの奥へ進めば進むほど、肉体感覚が消失していく。もはや撃たれた痛みも感じない。板倉珠美という一個の人間としての存在も、壮大な全体というものの中に飲み込まれて混じり合い、その意味を失い、完全なる無へと回帰した。



肉体にDNAがあるように、霊体にも一種のDNAがある。それに基づいて板倉珠美の魂が再構築されていく。光の塊が第二の扉のトンネル内部を移動してくる。トンネルの出口に近づくにつれて徐々にその光は人の姿を形成していく。第二と第一の扉の間に立った彼女は、完全に板倉珠美の容姿を回復していた。長い黒髪、高校生の制服みたいな色柄をしたお気に入りのスーツ。まさしく、タマちゃんの復活だ！



